

「認定人間中心設計専門家」 2012年度資格認定に関する説明会

2012/12/14

NPO法人 人間中心設計推進機構

専門資格認定委員会

2012/12/14

*

アジェンダ

Part **1** 認定HCD専門家制度とは（早川） 3

Part **2** 認定専門家に求められるコンピタンス（安藤） 14

Part **3** 申請書類の書き方（和井田） 24

Part **4** まとめ 31

Part 1

認定HCD専門家制度とは？

- 認定制度設立の趣旨、ねらい
- 誰のための制度か？
- 何を認定するのか？（コンピタンスマップ）
- どうやって審査するのか？
- 応募～合格発表まで

認定制度設立の趣旨

- (1) 人間中心設計（HCD）活動領域、役割の明確化
- (2) 人間中心設計（HCD）活動の活性化

正式名称

- 正式名称：「特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構認定 人間中心設計専門家」
- 略式名称：「HCD-Net認定 人間中心設計専門家」
- 英語正式名称：「Certified Human Centered Design Professional」
- 英語略式名称：「Certified HCD Professional」

認定組織

- HCD-Net 規格化/認定事業部にて認定制度確立・認定実施

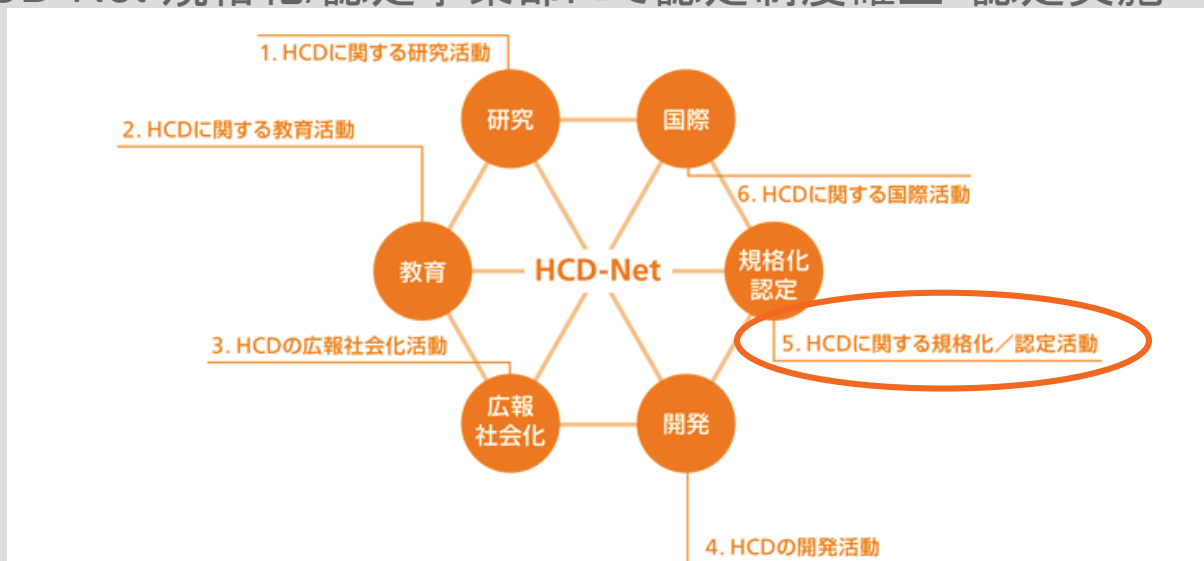


図1 HCD-Netの6つの活動領域

認定制度設立のねらい

- 商品やシステム開発における人間中心設計プロセスを実践できる専門家を認定する仕組みを確立する。
 - 使いにくい商品やシステムがまだまだたくさんあるため、実践には専門家が
必要
 - 電子政府ユーザビリティガイドラインへの対応
- 専門家に必要とされる能力を明らかにする。
 - 能力を満たしている人を認定する
- 専門性を高めたい人の活動目標を明らかにする。
 - 何を学習／実践すれば良いのかを示す
- 専門家を活用したい人への啓蒙を実践する。
 - 誰に依頼すればよいのかを示す

誰のための制度か？ (for Whom?)

- 専門家Ⅰ ... **実施中**
 - HCD 専門領域で後進の育成指導ができる人
 - 実業界での実務経験原則5年以上
 - プロジェクトマネージャー、ウェブプロデューサー、コンサルタント、ユーザビリティ専門家、等
- 専門家Ⅱ ... 準資格を検討中
 - 要求仕様やUI仕様などの設計活動およびユーザー調査・テストなどの活動が自力でできる人
 - 選任および兼務として HCD 活動を遂行できる人
 - プランナー、マーケティング・リサーチャー、システム・エンジニア、リクワイヤメント・エンジニア、Webディレクター、UIデザイナー、ユーザビリティ評価者、取扱説明制作者、等
- 専門家Ⅲ ... 初級者向け 検討中
 - HCD の基礎知識を有する人(例:発注担当者)

応募資格

- 人間中心設計・ユーザビリティ関連従事者としての実務経験が、原則5年以上あること。
 - 大学院在学中における実務活動は実務経験年数として含むことができます。
- 人間中心設計専門家としてのコンピタンスを実証するための実践事例が3つ以上あること。
- 学歴については特に制限ありません。

どうやって審査するのか？ (How?)

書類審査方式

- 実践プロジェクトの実績を書き込む(右図参照)

審査基準

- HCD-Netが定めた一定の(実践)基準を満たしたことを認めるもの

審査の流れ

- 審査員2名以上で、匿名化された「実践活動記述書」の内容を採点
- 担当する審査員の得点結果が大きく分かれた場合には、HCD-Netの定める判定委員会に於いて最終判定

審査書類の構成

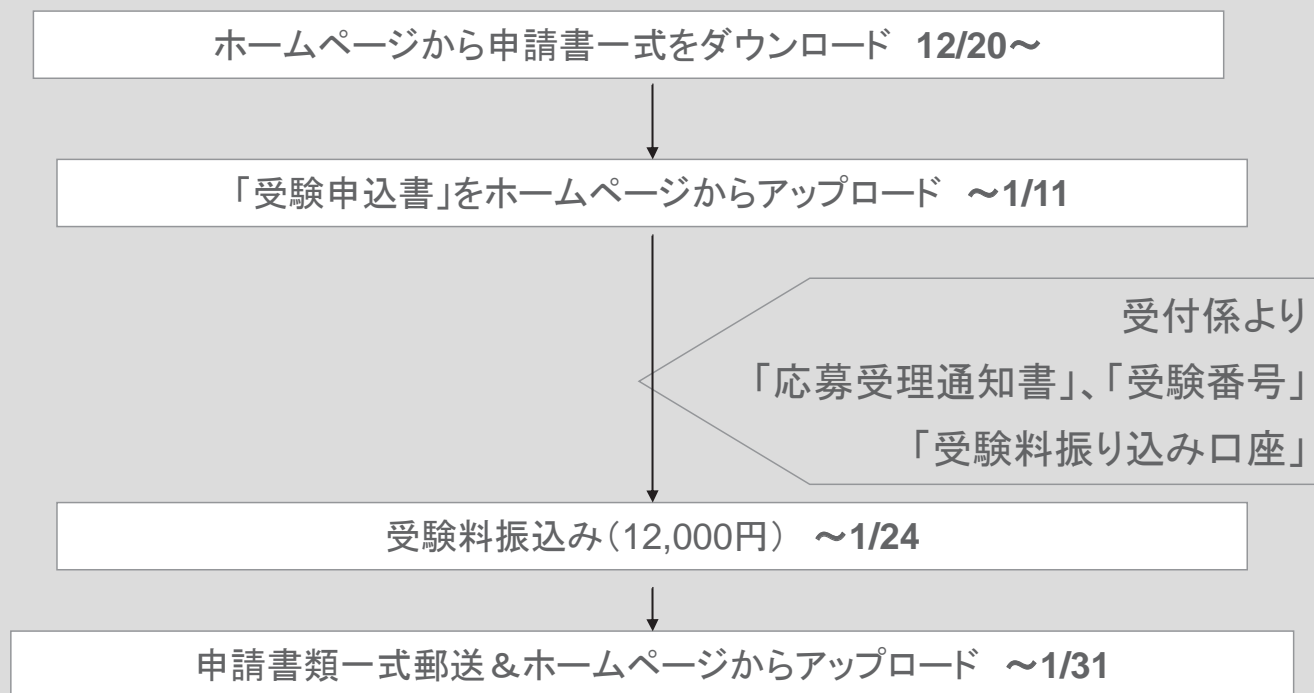
- A 受験申込書
 - A-1 基本情報
 - A-2 学歴・職務経歴書
- B 実践活動記述書
 - B-1 プロジェクト経歴／業務履歴
 - B-2 プロジェクト記述書
 - B-3 コンピタンス記述書
- C 参考資料
 - C-1 教育履歴
 - C-2 論文・著作
 - C-3 作品、成果物

何を認定するのか？ (What?)

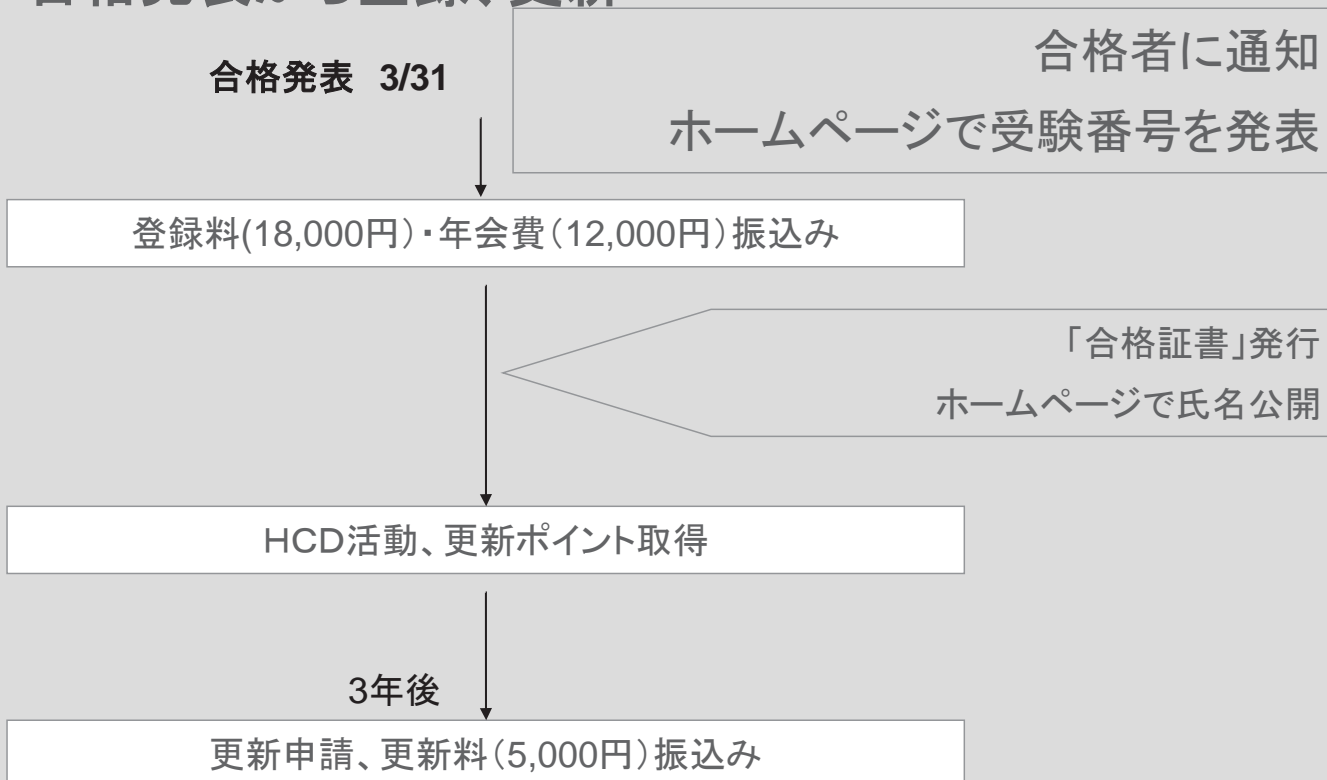
- 実践プロジェクトにおけるコンピタンスの発揮を評価する。

人間中心設計専門家 コンピタンスマップ (修正2010年度版) 参照

応募から申請書類提出まで



合格発表から登録、更新



昨年度(第三期)

•第三期の審査結果

- 計43人の人間中心設計専門家が認定された
- 現在222名の認定専門家

Part 2

認定専門家に求められるコンピタンスについて

人間中心設計専門家認定とコンピタンス

- HCD-Netが実施する、人間中心設計専門家の認定では、[HCDに関するコンピタンスの評価](#)によって認定を行っている。

コンピタンスとは？

- 専門業務の遂行に必要となる、能力・技能・知識



人間中心設計専門家認定の基本的な考え方

- HCD-net専門家資格認定委員会が定義した“コンピタンスマップ”に基づいた申請書(コンピタンス記述書)を、申請者が詳細に記述したのから、[そのコンピタンスが十分であるかを読み取ることで判定する。](#)

コンピタンスマップ

申請書
(コンピタンス記述書)

A: ユーザビリティエンジニアリング能力		B: HCD適用・開発能力		C: HCDプロジェクトマネジメント能力		K: 知識			ヒアリング能力
A1: 調査分析能力	A2: 設計・デザイン能力	B1: 組織への導入促進能力	B2: 研究開発能力	C1: HCDプロジェクトの遂行能力	C2: HCDの促進・成長向上能力	K1: プロセス・理念	K2: 開発技術・手法	K3: 関連学問分野の知識	H1: アナログ能力
A3: ユーザビリティ要件定義能力	A4: 要件仕様書作成能力	B3: HCD適用計画能力	B4: 手探り・方法開発能力	C3: プロジェクト企画・設計能力	C4: 組織マネジメント能力	K4: ユーザーエンゲージメントに関する知識	K5: 人間工学に関する知識	H2: 文書作成能力	
A5: インタビュー実施能力	A6: 情報収集の促進能力	B5: 教育プログラムの開発能力	B6: 基盤・事業の企画提案能力	C5: チーム運営能力	C6: 人材育成能力	K6: 認知心理学に関する知識	K7: コミュニケーション能力	H3: コミュニケーション能力	
A7: デザイン・改善提案能力	A8: プロトタイプ制作能力	B7: 評価・検証能力	B8: チームマネジメント能力	C7: チーム運営能力	C8: チームマネジメント能力	K8: 人間工学に関する知識	K9: 心理学に関する知識	H4: コミュニケーション能力	
A9: ユーザビリティ要件定義能力	A10: ユーザビリティ要件定義能力	B9: 評価・検証能力	B10: チームマネジメント能力	C9: チーム運営能力	C10: チームマネジメント能力	K10: 心理学に関する知識	K11: 心理学に関する知識	H5: コミュニケーション能力	
A11: 調査分析能力	A12: 設計・デザイン能力	B11: 組織への導入促進能力	B12: 研究開発能力	C11: HCDプロジェクトの遂行能力	C12: HCDの促進・成長向上能力	K12: プロセス・理念	K13: 開発技術・手法	H6: アナログ能力	
A13: ユーザビリティ要件定義能力	A14: 要件仕様書作成能力	B13: HCD適用計画能力	B14: 手探り・方法開発能力	C13: プロジェクト企画・設計能力	C14: 組織マネジメント能力	K14: ユーザーエンゲージメントに関する知識	K15: 人間工学に関する知識	H7: 文書作成能力	
A15: インタビュー実施能力	A16: 情報収集の促進能力	B15: 教育プログラムの開発能力	B16: 基盤・事業の企画提案能力	C15: チーム運営能力	C16: 人材育成能力	K16: 認知心理学に関する知識	K17: コミュニケーション能力	H8: コミュニケーション能力	
A17: デザイン・改善提案能力	A18: プロトタイプ制作能力	B17: 評価・検証能力	B18: チームマネジメント能力	C17: チーム運営能力	C18: チームマネジメント能力	K18: 人間工学に関する知識	K19: 心理学に関する知識	H9: コミュニケーション能力	
A19: ユーザビリティ要件定義能力	A20: ユーザビリティ要件定義能力	B19: 評価・検証能力	B20: チームマネジメント能力	C19: チーム運営能力	C20: チームマネジメント能力	K20: 心理学に関する知識	K21: 心理学に関する知識	H10: コミュニケーション能力	



申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)
申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)	申請書(コンピタンス記述書)

修正・2010年度 コンピタンスマップ

A: ユーザビリティエンジニアリング能力		B: HCD適用・開発能力		C: HCDプロジェクトマネジメント能力		K: 知識			L: テクニカルコミュニケーション能力
A1: 調査分析能力	A2: 設計デザイン能力	B1: 組織への導入推進能力	B2: 研究開発能力	C1: HCDプロジェクト運営能力	C2: HCDの組織成熟度向上能力	K1: プロセス・理念	K2: 開発部署共通	K3: 関連学問分野・手法	
11. リサーチデザイン能力	21. 要求仕様作成能力	31. HCD適用・導入設計力	41. 手法・方法論開発力	51. プロジェクト企画・設計能力	61. 組織マネジメント能力	71. HCD・UCDIに関する知識	81. ユーザーインタフェースに関する知識	91. 人間工学に関する知識	L1: 文書作成能力
12. インタビュー実施能力	22. 情報構造の設計能力	32. 教育プログラム開発力	42. 製品・事業の企画提案力	52. チーム運営能力	62. 人材育成能力		82. 製品・技術(ハード/ソフト)に関する知識	92. 認知心理学に関する知識	L2: コミュニケーション能力
13. 観察能力	23. デザイン・仕様提案能力			53. プロジェクト調整・推進能力			83. 利用状況に関する知識	93. 各種調査評価手法に関する知識	L3: プレゼンテーション能力
14. ユーザビリティテスト実施能力	24. プロトタイプ作成能力						84. 設計・開発・デザインのプロセスに関する知識	94. 調査実務計画に関する知識	
15. インспекション評価実施能力							85. ユニバーサルデザインに関する知識	95. 量的分析手法に関する知識	
16. 業務・情報分析能力							86. 品質管理に関する知識	96. 質的分析手法に関する知識	
17. 分析考察能力							87. ソフトウェア工学に関する知識	97. マーケティングに関する知識	
18. ユーザー要求分析能力							88. テクニカルコミュニケーションに関する知識		
必須コンピタンス項目1: この中から7項目以上				必須コンピタンス項目2: この中から2項目以上		参考項目(加点項目)			

2010年度版コンピタンスマップの修正について

- 2010年度に改訂したコンピタンスのうち、名称がわかりにくいものを8か所修正
- 基本的にはコンピタンスの位置づけの変更はしていない
- 「専門家のつどい」やコンピタンスワーキンググループなどの検討を踏まえて実施

A: ユーザビリティエンジニアリング能力		B: HCD適用・開発能力		C: HCDプロジェクトマネジメント能力	
A1: 調査分析能力	A2: 設計デザイン能力	B1: 組織への導入推進能力	B2: 研究開発能力	C1: HCDプロジェクト運営能力	C2: HCDの組織成熟度向上能力
11. リサーチデザイン能力	21. 要求仕様作成能力	31. HCD適用・導入設計力	41. 手法・方法論開発力	51. プロジェクト企画・設計能力	61. 組織マネジメント能力
12. インタビュー実施能力	22. 情報構造の設計能力	32. 教育プログラム開発力	42. 製品・事業の企画提案力	52. チーム運営能力	62. 人材育成能力
13. 観察能力	23. デザイン・仕様提案能力			53. プロジェクト調整・推進能力	
14. ユーザビリティテスト実施能力	24. プロトタイプ作成能力				
15. インспекション評価実施能力					
16. 業務・情報分析能力					
17. 分析考察能力					
18. ユーザー要求分析能力					

注意の必要なコンピタンス

- 11. リサーチデザイン能力
 - プロジェクトの目的に応じて、必要な調査・評価の手法を選び、調査企画を立案できる能力。
 - あくまで、個別プロジェクトの実施における計画の立案を想定している。
- 31. HCD適用・導入設計力
 - HCDプロセスの全部、あるいは一部の導入を計画立案する能力。
 - あくまで、専門家の立場・業務からのオフィシャルな導入であること。
 - 企業内でHCDやUX部署の立ち上げる等を含む。
 - 個人的、あるいはサークル的な取り組みだけでは、この能力には当たらない。勉強会などの組織内での取り組みは、「62. 人材育成能力」で記述できる。

注意の必要なコンピタンス

- 32. 教育プログラム開発力
 - 組織等へのHCD導入の際に、人材育成プログラムを開発する能力。
 - カリキュラム、教材の開発に関することであること。教育の社内制度だけでは十分でない。HCDの内容を理解したものであること。
 - あくまで専門家の立場・業務として、アドバイザー／コンサルティングとして実施する際を想定している。
- 62. 人材育成能力
 - プロジェクトをマネジメントする立場から、メンバーのHCDIに関するコンピタンスを向上させる能力。
 - プロジェクトメンバーに対して、OJTや研修、講義、対話などを通してスキル向上に寄与する。
 - あくまで組織のHCD業務を推進するプロジェクトメンバーとして実施するものを想定している。

注意の必要なコンピタンス

•41. 手法・方法論開発力

- HCDを実践するために必要となるプロセスや方法論、手技法を研究し、独自に整理・体系化したり、新たな手法を開発したりする能力。
- 個人的な技法の開発では十分でない。プロジェクトでの活用実績や方法論として外部化(社内レポートや論文等での発表)されていることが必要。

•42. 製品・事業の企画提案力

- HCDプロセスの上流において、HCDの諸手法を用いて新製品やサービス、あるいは事業や研究テーマなどを企画提案する能力。
- HCDに関連する手技法を用いたアプローチで、企画立案がなされていることが望ましい。

注意の必要なコンピタンス

L:テクニカルコミュニケーション能力

- L1:文書作成能力
- L2:コミュニケーション能力
- L3:プレゼンテーション能力

- HCD専門家としての専門業務をより円滑かつ効果的に実施する基礎能力。
- ここでいう「テクニカルコミュニケーション」は、専門業務に関わるステークホルダー間のコミュニケーションに必要な能力を意味する。
- いわゆるテクニカルコミュニケーション技術を、専門業務で活用する能力ととらえてもらえればよい。

申請にむけて

- 申請される方は、必ずコンピタンスの説明を読んだ上で、「コンピタンス記述書」を作成するようにしてください。
- 審査員は、あくまで定義されたコンピタンスの意味に基づいて審査を行います。
- そのため、コンピタンスの内容を誤解して、申請書を作成していた場合には、評価はされませんのでご注意ください。
- 1つのコンピタンスについて、実務経験の能力を十分読み取れるよう、しっかり記述することにご留意ください。

Part 3

申請書類の書き方

- 「実践活動記述書」とは
- コンピタンス採点のポイント
- プロジェクトの選び方
- 合否判定

「B 実践活動記述書」とは

採点対象は、これだけ

B-1 プロジェクト経歴／業務履歴

B-3 コンピタンス記述書

B-2 プロジェクト記述書

HCDIに関する実務活動を記述

コンピタンス採点のポイント 1

コンピタンス	定義	記入のポイント	↓記入欄	↓記入欄
A. ユーザビリティエンジニアリング能力			P1	P2
A1: 調査分析能力				
11. リサーチデザイン能力	<ul style="list-style-type: none"> 課題の本質が何かを適切に掴み、プロジェクトの目的に合わせて適切な調査、評価方法を設計する能力のこと。 調査、評価および分析手法(93~96参照)に関する知識を持っているだけでなく、何をどのように適用すべきかを判断、選択した上で、詳細な調査、評価計画を作成することが期待される。 	<p>(1) 課題／目的を明示してください(課題を的確につかんでいることがポイント)。</p> <p>(2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。</p> <p>(3) 申請者のアウトプット(計画書等の目次、内容、ページ数等)、又は成果／効果を示してください。</p>		
<p>コンピタンスの発揮が実証されているか</p>				

コンピタンス採点のポイント 2

コンピタンス	定義	記入のポイント	↓記入欄	↓記入欄
A. ユーザビリティエンジニアリング能力				P2
A1: 調査分析能力				
11. リサーチデザイン能力	<ul style="list-style-type: none"> 課題の本質が何かを適切に掴み、プロジェクトの目的に合わせて適切な調査、評価方法を設計する能力のこと。 調査、評価および分析手法(93~96参照)に関する知識を持っているだけでなく、何をどのように適用すべきかを判断、選択した上で、詳細な調査、評価計画を作成することが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 課題/目的を明示してください(課題を的確につかんでいることがポイント)。 (2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。 (3) 申請者のアウトプット(計画書等の目次、内容、ページ数等)、又は成果/効果を示してください。 (4) その他アピールできることがあれば、ご記入ください。 		

課題をどのように把握しているか

どのような工夫で解決したか

申請者自身が主体的に活動したか

コンピタンス実証の根拠が読み取れるか

コンピタンス採点のポイント 3

B-3 コンピタンス記述書

プロジェクト記述書や、プロジェクトごとのコンピタンスの記述を見て信憑性を判断

B-2 プロジェクト記述書

【実践活動記述書 B-3】 コンピタンス記述書

コンピタンスは各プロジェクトの得点のうち、一番高い得点を採用

プロジェクトの選び方

- コンピタンスを幅広く含むようにプロジェクトを選ぶ
 - 1つのプロジェクトで全コンピタンスをカバーする必要はない
- なるべく公開の制約が少ないプロジェクトを選ぶ
 - 記述が具体的なほうが審査員が実証を判断しやすい
- 業務上の守秘義務に配慮する
 - 対象システムやクライアントなどに言及できない場合は、利用したHCDの技術・知識、HCD業務を進める上での工夫などに焦点を当てて記述する

合否判定

- 審査員の採点した「B-3 コンピタンス記述書」を基に次のように行われます
 - 1. 必須項目の数が足りているか
 - ◆ **A、B**のコンピタンスのうち、得点のある項目が**7項目以上**
 - ◆ **C**のコンピタンスのうち、得点のある項目が**2項目以上**
 - 1. 総合得点が一定レベルに達しているか
- 受験者あたり審査員2名以上で採点しますが、判定結果が分かれた場合には、HCD-Netの定める委員会に於いて最終判定します。

Part 7

まとめ

- まとめ
- Q&A

まとめ

- 人間中心設計(HCD)活動に関する専門家として長年業務を実践し、ユーザビリティに関する品質向上と技術の普及に貢献している専門家を認定します。
- 人間中心設計専門家コンピタンスマップ(修正2010年版)に基づいて審査します。
- 提出された書類だけでコンピタンスの発揮を判断します。

ご自身の活動を
コンピタンスの視点で捉え直して
実証が伝わるように記述してください。

お問い合わせ先

- ご不明点があれば、下記までお問い合わせ下さい。
 - 人間中心設計推進機構 認定 人間中心設計(HCD)専門家 受験係
 - 住所: 〒150-0022
 - 東京都渋谷区恵比寿南1-20-6 第21荒井ビル
- 申請書受付／問い合わせ専用Email: nintei@hcdnet.org

※電話でのお問合せには対応できません

Q&A

[メモ]